

2 過去の災害の被害状況

昭和18年9月 台風26号

① 気象概況

9月14日正午ごろサイパン島の東に発生した台風26号は、はじめ西北西に進んだが、沖縄の南方海上で北々東に転向、発達しながら南西諸島沿いに進んで、20日正午ごろ、四国西岸の宿毛付近に上陸、四国、中国を横断した後、鳥取付近から日本海に入って衰えながら北東へ去った。19日ごろから日本に来ていた前線が、台風の暖湿気で活発化し、台風前面に豪雨をもたらした。大分、宮崎、鹿児島、鳥取の被害が特に大きかった。

以上、「呉市の火災と水災の記録(S52.6/呉市防災協会)」より転載

② 被害状況

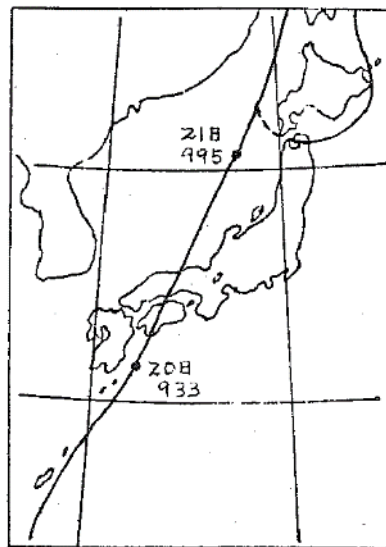
呉署管内不詳。広署管内、奥原鉄工所工場1棟全壊事務所1棟半壊、広駅前住宅2棟全壊、いずれも新築中のもの。長浜峠崩壊し電車不通、阿賀大入冠崎間市道が崖崩れのため通行不能。床下浸水広町34、仁方町9、田畑の浸水7町歩、等。

以上、「呉市の火災と水災の記録(S52.6/呉市防災協会)」より転載

③ 雨量データ

日降雨量 19日 95.0 20日 126.0 実効雨量 19日 117.9

以上、「呉市の火災と水災の記録(S52.6/呉市防災協会)」より転載



▲ 昭和18・9・20 台風26号

出典:「呉市の火災と水災の記録
(S52.6/呉市防災協会)」より転載

昭和20年9月 枕崎台風

① 気象概況

枕崎台風は、17日の14時35分ごろ九州南部に当たる枕崎付近に上陸、九州を横断、佐田岬、伊予灘、広島を襲い、米子、松江を荒らして18日朝、能登半島の西側から日本海に抜け、新潟の北から東北地方へ再上陸して太平洋に抜けた。

雨の最も強かったのは17日21時7分から22時7分まで57.1mmである。特に被害のひどかった呉地方では、この台風によって16日9時頃より降り始め、16時ごろ本格的な降り方となり風が相当強くなってきた。17日早暁、雨は依然として降り続けていたが、風は全然なくなった。10時ごろ、また風が出はじめ、午後になり雨と風とともに強さを増し、18時より22時に至る4時間の雨量は113.3mmに達した。

以上、「Web広島県土砂災害ポータルひろしま『過去の主な土砂災害』」より転載

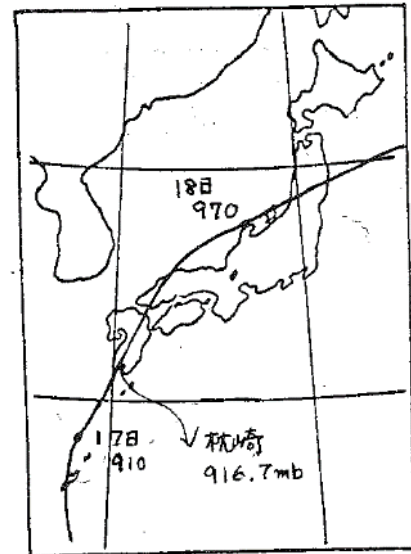
② 被害状況

被害の最もひどかったのは、広島、呉市及びその周辺で、県全体では死者総数2,012人を数えた。

呉では、雨が風とともに強さを増した17日午後から各河川溪流は著しく増水し、18時から22時までの113.3mmの降雨の中、大小全ての溪流は、氾濫し、山腹の崩壊が相続き、二河川の堤防決壊を初めとして各谷間より土石流が急斜面を押し流れ、あっというまに1,162戸の家屋を流失、792戸を半壊、そして死者1,154名にもものぼる大惨事となった。

大野村(現佐伯郡大野町)では丸石川で大規模土石流が発生し、この丸石川が敷地の中央を貫流する下流部の大野陸軍病院を直撃し180人近くの人が亡くなった。

以上、「Web広島県土砂災害ポータルひろしま『過去の主な土砂災害』」より転載



▲ 昭和20・9・17 枕崎台風

出典:「呉市の火災と水災の記録
(S52.6/呉市防災協会)」より転載

▼ 昭和20年9月17日風水害被害調書

被害事項	数	量	被害事項	数	量
死亡者	*	1,154名	山林崩壊		480ヶ
負傷者		440ヶ	市道流失欠損	513ヶ所	32,540m
流失家屋		1,162戸	橋梁流失	79ヶ所	920m
半壊家屋		792ヶ	河川流失欠損	161ヶ所	62,181m
床上浸水家屋		8,814ヶ	市営墓地		6ヶ所
宅地流失及埋没		117,240坪	市営大葬場		6ヶ
田		1,323反	国民学校		32校
畑		529ヶ	港灣施設		12ヶ所

* 註-2, 註1を参照のこと。

註 1 この数字は呉市役所が調査した資料によつた。別図呉市内地図に記入した死者の数字(1,087名)は昭和25年3月に調査せる数字である。災害後年数を経ている為に数字上の差を生じたが各溪流における死者数の正確を期する為調査せる数字をそのまま記入しておいた。

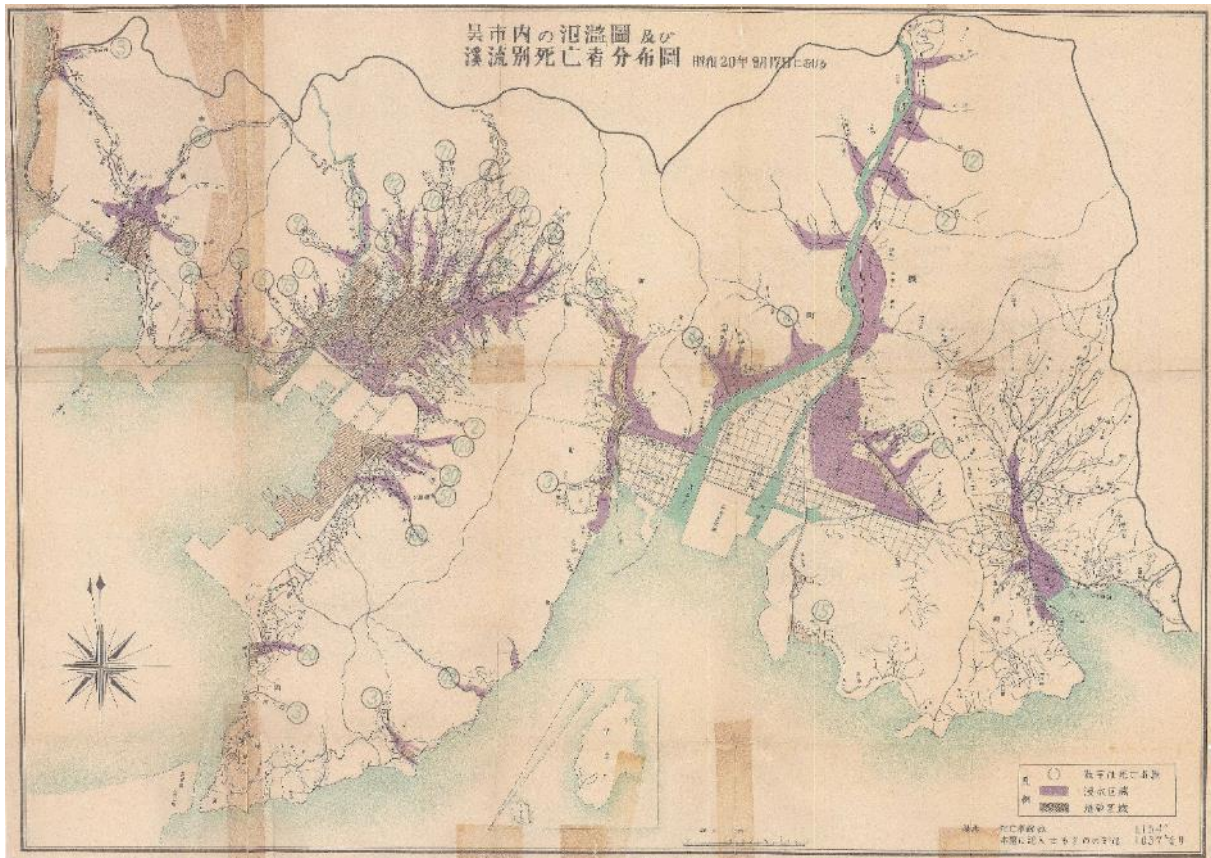
出典:「昭和20年9月17日における呉市の水害について(S26.8/広島縣土木部砂防課)」より転載

▼ 昭和20年9月17日風水害地区別被害調書

地区	流失田	流失畑	計	死亡者	行方不明	負傷者	住宅流失	住宅全壊	住宅半壊
舊市内	77,513	74,406	151,919	600	17	156	313	353	624
吉浦	93,425	11,215	104,710	150	—	36	102	25	115
警固屋	76,200	18,620	94,820	14	—	21	16	20	58
阿賀	253,623	132,701	386,329	62	—	14	62	49	218
広	665,711	231,508	897,219	76	—	27	28	77	200
仁方	157,001	61,121	218,122	1	—	—	3	—	9
計	1,323,618	529,711	1,853,329	903	17	254	584	525	1,234

註-3 (1)の数字と違つているも、当時の混乱せる時の調査をそのまま記せり。

出典:「昭和20年9月17日における呉市の水害について(S26.8/広島縣土木部砂防課)」より転載



▲ 呉市内の氾濫圖及び溪流別死者分布圖

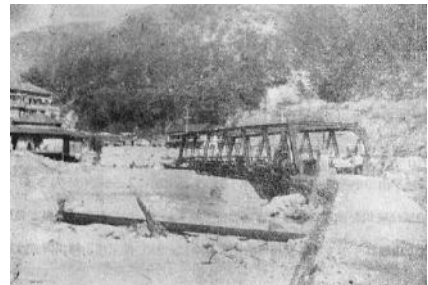
出典:「昭和20年9月17日における呉市の水害について(S26.8/広島縣土木部砂防課)」より転載



▲写真:二河公園にて埋没せる市営バス
(建設省河川局治水課長 伊藤剛氏撮影)



▲写真:黒瀬川の氾濫
(建設省河川局治水課長 伊藤剛氏撮影)



▲写真:二河川の鉄管橋
(建設省河川局治水課長 伊藤剛氏撮影)

出典:「昭和20年9月17日における呉市の水害について(S26.8/広島縣土木部砂防課)」より転載

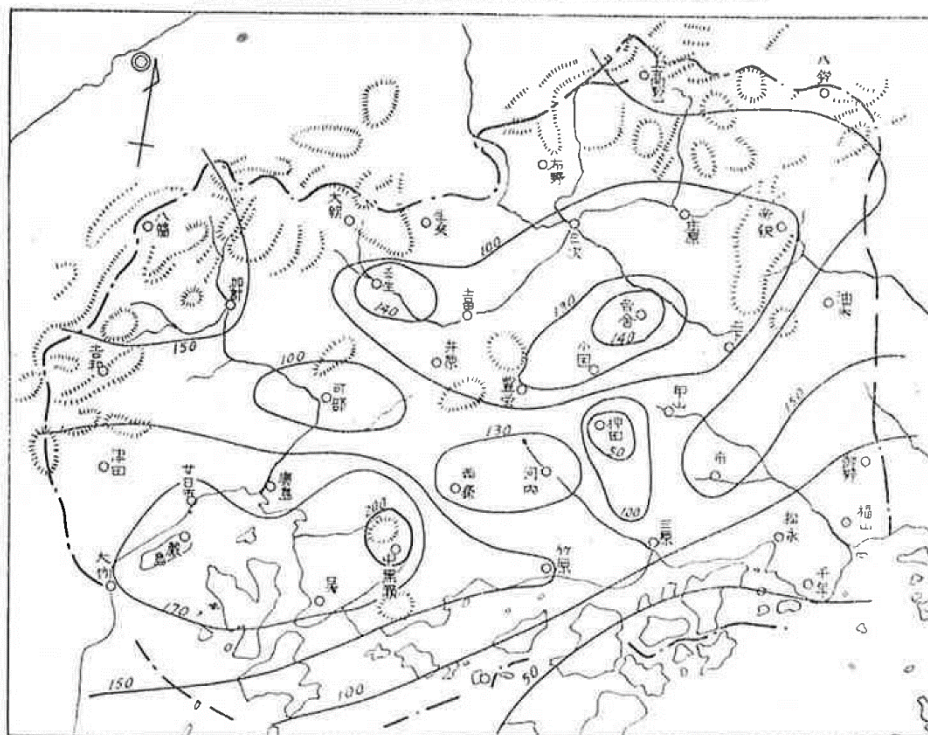
③ 雨量データ等

▼ 呉市に於ける昭和20年9月17日気象状況表（呉測候所調査）

日	時	降雨量	風 向	風 速	備 考
16	9	mm		m	計るに足らざる程度にて 降り初む
	10	0.0	北 西	2.8	
	14	5.1	西	1.2	
	18	2.8	北 西	4.2	
	22	14.9	北 東	不明 (相当強し)	
17	6	14.6	—	0.0	10時迄の降雨量 日雨量計 66.3mm
	10	28.3	南 西	3.7	
	14	35.8	東	5.3	
	18	29.8	東 北 東	18.5	
	22	113.3	南 東	12.5	
18	2	6.1	西南西	19.7	10時迄の降雨量 日雨量計 185.1mm
	6	0.0	北 西	10.0	
	10	0.0	西北西	5.5	

備考 16日22時～17日22時をとると24時間降雨量は221.8mmとなる。

出典：「昭和20年9月17日における呉市の水害について(S26.8/広島縣土木部砂防課)」より転載



▲ 昭和20年9月17日の日雨量分布図

出典：「昭和20年9月17日における呉市の水害について(S26.8/広島縣土木部砂防課)」より転載

昭和24年6月 デラ台風

① 気象概況

6月19日ごろ、パラオ北方に発生したこの台風は、発達しながら北西に進んだのち、19日夕刻にフィリピン北東海上で北東へ転向し、南西諸島に沿って時速60キロで進み、20日21時過ぎに九州南端から上陸した。上陸後は衰えながら九州を縦断して北上、朝鮮半島で東へ曲り、津軽海峡の西で消えた。この台風が接近する前から本州南岸沿いに梅雨前線があったため九州、四国に大雨を降らし、呉市にも相当な被害をもたらした。

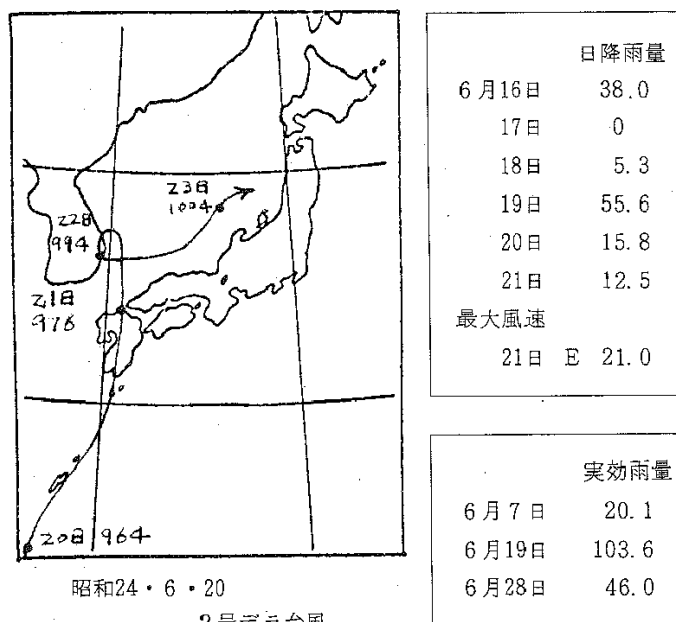
以上、「呉市の火災と水災の記録(S52.6/呉市防災協会)」より転載

② 被害状況

宮原通11丁目新制中学校校舎（100坪）、広町末広の川南工場（184坪）など全壊12棟、半壊10棟。また、この台風の経路の東側400キロで暴風が吹きあれ、宮原出張所、宮原13丁目市営住宅など宮原一帯で多数の屋根瓦が吹き飛ばされた。広島地方で最大風速18.1、最大瞬間風速24.4メートルを記録した。悲惨な青葉丸の遭難（旅客69、乗員19名死亡、旅客28、乗員25名行方不明）もこのときであった。阿賀町大入で漁船沈没4、行方不明2、一部損壊1もあり、また21日10時38分ごろ、広町町田市営住宅北、築木山の山肌が高さ60メートル、巾16メートルにわたり一大音響とともに崩壊して、市営住宅1棟（4世帯居住）、別棟1棟の一部を埋没、死者4、負傷者3名を出した。この土砂流は、巾30メートル、長さ40メートルにわたり、呉消防署から応援にかけつけ、地元民、消防団員らの救出作業は翌朝3時30分まで5時間にも及んだ。

以上、「呉市の火災と水災の記録(S52.6/呉市防災協会)」より転載

③ 雨量データ



▲ 昭和24・6・20 2号デラ台風

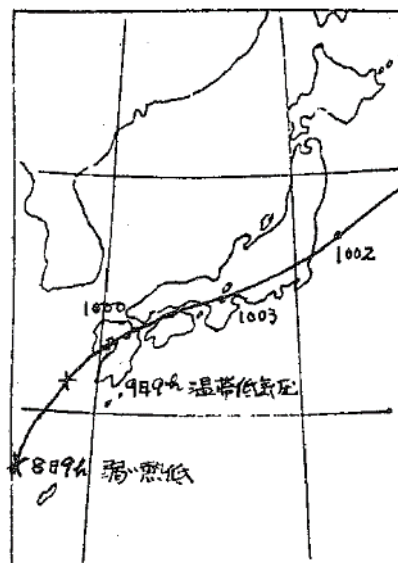
出典:「呉市の火災と水災の記録(S52.6/呉市防災協会)」より転載

昭和42年7月 豪雨

① 気象概況

当時梅雨前線は西日本に停滞していて、5日に降り始めた雨も8日の午前2時ごろまでに約18mm程度であったが、台風7号が南西諸島の宮古島付近を通過して、東シナ海を北上しはじめ、8日朝から前線の活動が活発になった。8日の夜明け前から雷を伴って強い雨が降り始め、昼過ぎまで続き、呉市では8日6時から12時までに49.6mmの雨が降った。その後も停滞した梅雨前線のため8日午後から夜にかけて断続的な雨が降った。台風7号は、8日9時にはすでに弱い熱帯低気圧となり、9日になるとさらに衰え温帯低気圧となったが、折りから北上してきた梅雨前線に沿って移動し、朝から再び雨が強くなった。低気圧は15時には九州北部に達しているが、このころ呉市では急激に強い雨が降り、16時から17時にかけての雨量は74.7mmにも達した。

以上、「Web広島県土砂災害ポータルひろしま『過去の主な土砂災害』」より転載



▲ 昭和42・7・9 7号台風

出典:「呉市の火災と水災の記録 (S52.6/呉市防災協会)」より転載

② 被害状況

呉市は、昭和20年災害時程度の降雨量に対応する復興計画をたてていたため、昭和20年災害に比べ、被害が少なかったが、豪雨の前日の降水量は、昭和20年より多く地盤がゆるんでいたところへ、本格的な豪雨となり、山崩れ、がけ崩れ、河川の決壊、氾濫が全市にわたり、生理め171名、死者88名の大災害をもたらした。また、広島県全体では死者が159名にも及んだ。

以上、「Web広島県土砂災害ポータルひろしま『過去の主な土砂災害』」より転載



吉松川



和庄川 (土石流のダム扨止)

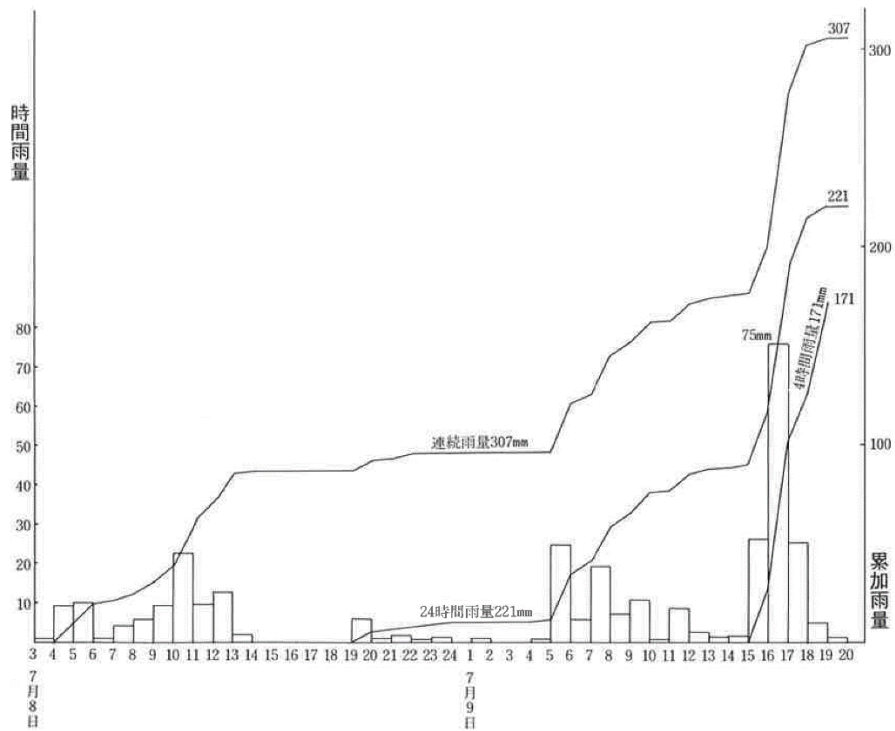


横路川

▲ 被災写真

出典:「呉市の42年災害(S50.3/広島県)」より転載

③ 雨量データ等



▲ 降水量図 42. 7. 8～9

出典:「呉市の42年災害(S50.3/広島県)」より転載

▼ 20年災害との比較 (呉市)

区分	年度別	昭和20年9月17日	昭和42年7月9日
日降雨量	16日	22.8mm	8日 92.5mm
	17日	221.8mm	9日 212.9mm
	計	244.6mm	計 305.4mm
延降雨量	16日9時～18日2時	250.7mm	7日9時～10日9時 317.0mm
降最水大量値	4時間	113.3mm	130.4mm
	1時間	—	9日16時～17時 74.7mm
	10分間	—	9日16時17分～27分 24.0mm
広島県被害調べ { () は呉市分 }			
死者		1,775人	159人 (88人)
負傷者		1,054人	231人 (231人)
行方不明		783人	0人 (0人)
家屋全壊		2,127戸	514戸 (289戸)
家屋半壊		3,375戸	605戸 (176戸)
家屋流失		1,330戸	
床上浸水		24,168戸	10,690戸 (6,000戸)
床下浸水		28,358戸	49,249戸 (20,000戸)
橋梁流失		1,096ヶ所	
道路損潰		1,135ヶ所	
堤防欠壊		1,252ヶ所	
田畑流失		3,857町	
田畑浸水		10,651町	

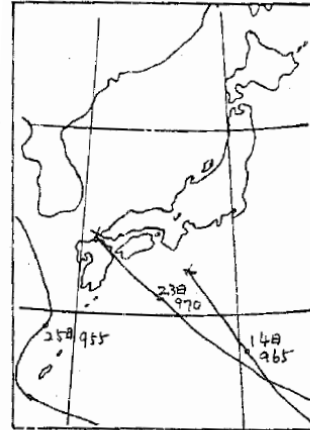
出典:「呉市の42年災害(S50.3/広島県)」より転載

昭和47年7月 豪雨

① 気象概況

日本海をゆっくり南下していた前線が太平洋高気圧の急激な衰退にともない、9日夜から10日未明にかけて中国地方を通過し、福山で89ミリと沿岸部に多くの雨をもたらした。

その後12日まで、梅雨前線は関東南部から瀬戸内、北九州の線に停滞し、前線上を低気圧が次々に東進した。特に沖縄はるか南東洋上と南支那海北部にそれぞれ7号、8号があり、これらによってもたらされた暖湿な空気が南西気流の湿舌として中国地方に入り込み、日本海の上層の寒気と相まって不安定度が增大、北九州から中国地方にかけて雷雨を伴った断続的な大雨が降った。



日降雨量	
7月9日	39.5
10日	116.5
11日	34.0
12日	73.0
13日	8.5
14日	3.5
15日	0.5

実効雨量	
4月19日	34.5
5月7日	25.2
6月6日	26.1
8月19日	5.6
9月15日	49.3

▲ 昭和47・7 6号7号9号台風

出典:「呉市の火災と水災の記録(S52.6/呉市防災協会)」より転載

このたびの大雨は、山陰側にあった強い雨域が広島県北部にまで領域を拡げて定着し、9日9時から13日9時までの総雨量が上下東、向原、冠山を結ぶ線以北で400ミリ以上、庄原511ミリと三次市を中心とする県北一帯に特に甚大な大水害をもたらしたが、沿岸部でも200ミリを超え、その被害は県下全域にわたった。

以上、呉市の火災と水災の記録(S52.6/呉市防災協会)より転載

② 被害状況

▼ 昭和47年

被害別 発生日	死傷者		建物				田畑		道 路	橋 り	河 川 堤 防	崖 く ずれ	降雨量・その他 ()は最大1時間雨量		
	死 者	傷 者	全 壊	半 壊	一部 壊	床 上 浸 水	床 下 浸 水	管 道 所						面 積 (ha)	
計			1	7	4	57	140	1251	17	3.5	55	10	502		
7/6									1			1	6日1.5 7日3.0 8日30.5 (8日5.0)		
7/20					1							3	19日0.5 20日48.5 (20日12.0)		
7/6					2					2		4	8日43.5 9日7.5 (8日7.0)		
7/7~7/8					11	2	13	1		16		46	7日65.6 8日60.5 (7日43.0 8日42.5)		
7/22												1	22日38.0 (22日5.0)		
7/6~7/6					1					4		6	4日3.5 5日24.5 6日38.5 (5日12.0)		
7/6~7/15			1	2	19	2	167	9	55	26		5	296	日降雨量別記(9日24.5 13日40.0 12日28.0)	
7/25								1						23日7.5 24日43.5 25日0	
7/27								3						26日0 27日0	
7/9~7/10								31						8日0 9日0	
7/20~7/21			1	6	2	22	136	1036	6	3	6		5	131	20日105.0 21日205.0 (20日16.5 21日36.0)
7/6												1		7日9.5 8日48.5 (8日12.5)	
7/10					1					1		12		14日15.0 15日10.0 16日79.5 (16日25.0)	
11/10												1		9日10.0 10日32.0 (10日11.0)	

出典:「呉市の火災と水災の記録(S52.6/呉市防災協会)」より転載

平成11年6月 豪雨

① 気象概況

梅雨前線は、22日夜には大陸東岸から日本の南海上にかけて停滞。23日朝には大陸東岸で梅雨前線上に低気圧が発生、23日夜にかけて黄海に進んできた。これに伴い、梅雨前線が中国地方西部から北上を開始し、広島県では23日昼前頃から雨となった

低気圧は24日朝にかけて黄海から日本海に進み、24日夜には北日本に移動した。このため、一旦日本海に北上していた梅雨前線が、24日の日中に中国地方を横切り、24日夜にかけて四国地方まで南下した。県内は梅雨前線の通過で、終日雨となり所々で強く降った。25日午前中はまだ梅雨前線の影響で雨が残ったが、午後からは梅雨前線が南下して小康状態になった。

26日午後には、梅雨前線上の九州西海上で低気圧が発達し、27日朝にかけて中国地方を通過した。これに伴って、梅雨前線は四国南岸から中国地方まで北上、26日午後から27日午前中にかけて県下全域で雨となった。その後、梅雨前線は西日本の南岸まで南下したため、県内の雨は再び小康状態となった。

28日午後から夜にかけて梅雨前線上の低気圧が大陸東岸から黄海に進み、梅雨前線が九州南部から中国地方西部へ北上、県内は夜遅くから雨となった。

29日朝には梅雨前線上の低気圧が対馬海峡に進み、梅雨前線は中国地方の西部から北上した。このため、梅雨前線に向かう南からの温かく湿った空気の流入が強まり、梅雨前線の活動が活発となって、県内に雷を伴った激しい雨が降った。午後からは、低気圧が山陰沿岸をゆっくり北東に進み、暖かく湿った空気の流入が一段と強まったため、所々で雷を伴った激しい雨が数時間にわたって降り続き集中豪雨となった。

30日には、梅雨前線が日本の南海上まで南下し、夕方には県内の雨はほとんど終わった。

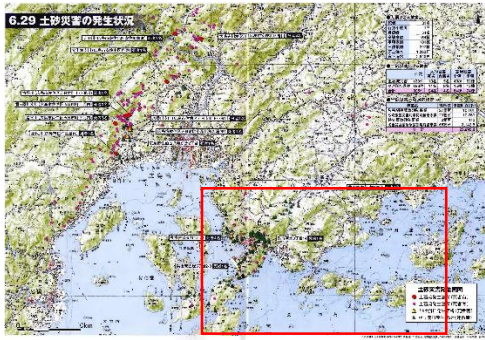
以上、「平成11年6月末梅雨前線豪雨災害6.29(速報版)(広島県/H11.9)」より転載

29日午前0時頃から降り始めた雨は、午前中は県北部を中心として局所的に強まり時間雨量20mm以上を記録したが、広島市を中心とした県南西部では、午前中は時間雨量10mm以下で推移した。午後になって前線の活動が活発になり、13時～16時にかけて、広島市佐伯区から広島市安佐北区一帯で強い降雨を観測した。また、15時～17時にかけて大柿町から東広島市の一帯では、呉市を中心として強い降雨を観測した。そして、降雨は、広島市方面で16時頃、呉市方面で17時頃、東広島市方面で18時頃になり順次止んだ。

6月28日～6月29日の連続雨量は大野IC199.5mm、戸山271mm、呉市184mmの大雨となった。特に、6月29日の時間雨量は、八幡川橋14時～15時に81mmとなったのを始め、戸山で14時～16時に63mm、呉市で15時50分～16時50分に73mmと記録的な短時間降雨となった。

以上、「Web広島県土砂災害ポータルひろしま『過去の主な土砂災害』」より転載

② 被害状況



▲ 6・29土砂災害の発生状況

出典:「平成11年豪雨災害6.29土砂災害復旧誌ダイジェスト版(広島県/H15.3)」より転載(呉市域を拡大して転載)



災害発生斜面の全景



被災人家より見た斜面状況 土砂により押しつぶされた被災人家



▲ 写真: 警固屋7丁目114被災状況

出典:「平成11年6月末梅雨前線豪雨災害6.29(速報版)(広島県/H11.9)」より転載



崩壊斜面全景



崩壊斜面(表土が流出したため露出した風化花崗岩)

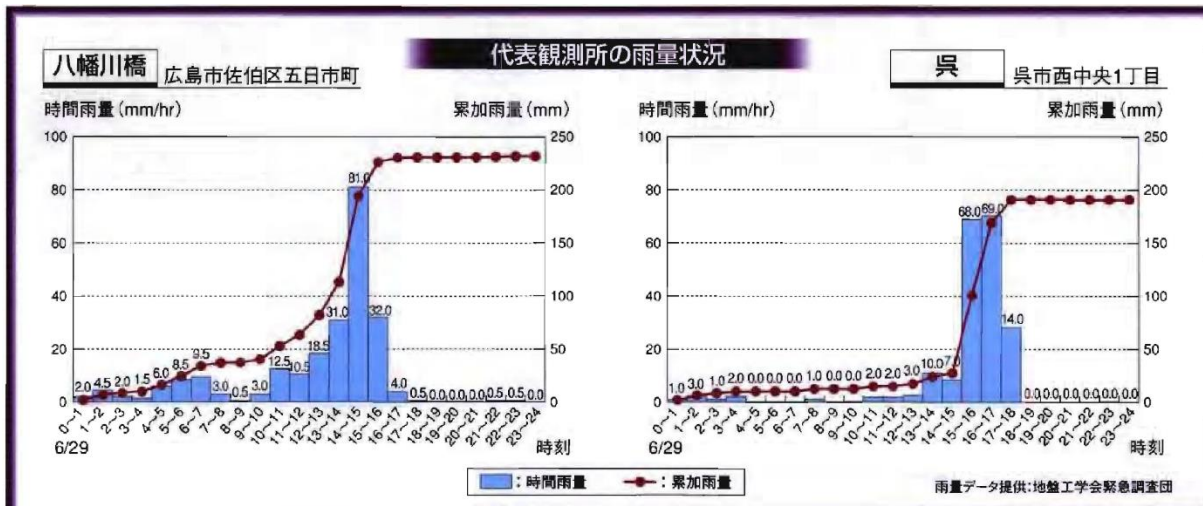


被災地より崩壊斜面部を眺める

▲ 写真：吉浦東町12被災状況

出典：「平成11年6月末梅雨前線豪雨災害6.29(速報版)(広島県/H11.9)」より転載

① 雨量データ等



▲ 代表観測所の雨量状況

出典：「平成11年豪雨災害6.29土砂災害復旧誌ダイジェスト版」より転載

平成13年 芸予地震

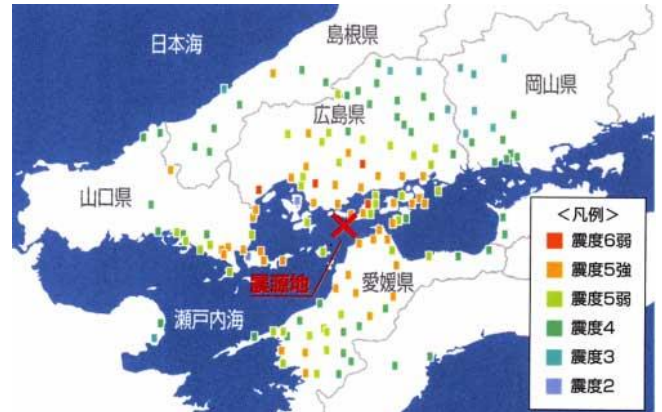
① 地震の概要

平成13年3月24日15時28分、安芸灘（北緯34度1分、東経132度7分、深さ51km）を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生した。熊野町、大野町、河内町、大崎町で、震度6弱を観測した他、呉市を中心に広島県南部の広い範囲で震度5強から震度5弱の強い地震を観測した。

以上、「Web広島県土砂災害ポータルひろしま『過去の主な土砂災害』」より転載

▼ 地震の概要及び諸元

名称	平成13年（2001年）芸予地震
発生時刻	2001年3月24日 15時28分
震源	北緯34°07.2′、東経132°42.5′
震源の深さ	51km
地震規模	マグニチュード 6.7
地震形態	スラブ内地震
最大加速度	830.9gal（湯来） { 呉市内：425.2gal（東西） : 311.9gal（南北） }



出典：「芸予地震に係る民間宅地擁壁復旧事業の記録（広島県/H15.3）」より転載

▲ 芸予地震深度分布図

② 被害状況

人的被害は死者1名、重傷者33名で、家屋被害は、全壊40戸、半壊242戸、一部損壊28,240戸に達した。公共土木施設関係では593箇所、概算被害額2,774百万円という多大な損失があった。

今回の地震では、民間宅地での擁壁被害が多発したことに特徴があり、特に山腹まで擁壁を積み上げた宅地が発達し震源に近い呉市に被害が集中した。被災戸数では、全壊家屋の87%、35戸が呉市で発生している。

以上、「Web広島県土砂災害ポータルひろしま『過去の主な土砂災害』」より転載

今回の地震による呉市周辺における被害は、斜面崩壊、落石、液状化等であったが、中でも最も顕著な被災形態は住家に関わるもので、斜面地に作られた民間宅地の石積み擁壁が壊れるなどの被害が多数発生した。また、家屋についても全壊こそ少なかったものの、屋根・瓦等の損壊を中心とする半壊及び一部損壊が多かった。

以上、「芸予地震に係る民間宅地擁壁復旧事業の記録（広島県/H15.3）」より転載

▼ 呉市における被害状況

被害区分		被害内容	
人	死者	1人	
	重傷者	12人	
	軽傷者	66人	
建物	住家	全壊	58棟 68世帯 146人
		半壊	261棟 301世帯 675人
		一部破損	13,053棟 17,278世帯 40,058人
	非住家	全壊	14棟
		半壊	43棟

出典：「芸予地震に係る民間宅地擁壁復旧事業の記録（広島県/H15.3）」より転載

平成17年9月 台風14号

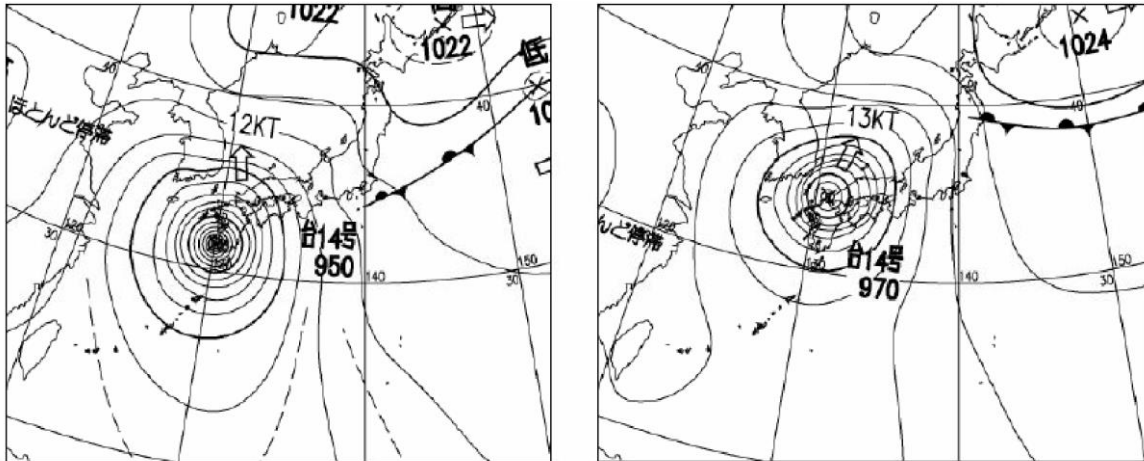
① 気象概況

平成17年9月3日から7日にかけて、秋雨前線と台風第14号の影響により、広島県の広島・呉、芸北を中心に大雨による災害が発生した。

台風第14号は8月29日21時にマリアナ諸島付近で発生し、発達しながら北西に進み、9月6日朝九州南部に接近し、九州西岸を北上、大型で強い勢力を保ったまま、14時過ぎ長崎県諫早市付近に上陸した。その後、九州北部を北北東に進み、20時頃北九州市付近から日本海に抜け、7日未明にかけては山陰沖を時速20～30kmの比較的ゆっくりとした速度で北東に進んだ。

広島県は、3日16時から7日09時までの総雨量が廿日市津田394mm、安芸太田町内黒山393mm、安芸太田町加計310mm（いずれもアメダス）などであった。なお、広島・呉、芸北では6日夜、1時間30mm以上の激しい雨が局地的に数時間にわたって降り続いた。

また、台風の接近に伴い、6日夜遅くからの満潮時を中心に潮位が高くなり、広島港では最高潮位が6日23時06分TP上263cm（海上保安庁データ）に達した。



出典：広島地方気象台ホームページ「広島県(宮島町、廿日市市)現地調査報告書(広島地方気象台/H17.10)」より転載
<https://www.jma-net.go.jp/hiroshima/siryo/saigai/t0514genchichousa.pdf>

② 被害状況

▼ 人的被害 (単位 人)

市町名	死亡	行方不明	重傷	軽傷	計
広島市			1	1	2
呉市			2	2	4
三原市			1		1
福山市				3	3
因島市				1	1
宮島町				1	1
計			4	8	12

出典：広島地方気象台ホームページ「広島県(宮島町、廿日市市)現地調査報告書(広島地方気象台/H17.10)」より転載
<https://www.jma-net.go.jp/hiroshima/siryo/saigai/t0514genchichousa.pdf>

▼ 住家被害

(単位 棟)

市町名	全壊	一部損壊	床下浸水	床上浸水	合計
広島市	1	18	83	188	290
呉市		11	186	7	204
竹原市			310	4	314
三原市			172	27	199
因島市		2	43	4	49
福山市			117	9	126
大竹市		2	19	6	27
尾道市			108	4	112
東広島市			62	5	67
廿日市市	3		81	5	89
安芸高田市			6		6
江田島市		2	81	6	89
坂町			5		5
大野町			11		11
宮島町		9	107	13	129
安芸太田町			31	4	35
北広島町			2		2
大崎上島町			121	3	124
瀬戸田町			16		16
計	4	44	1,561	285	1,894

平成17年9月12日 15時現在 広島県危機管理室調べ

出典：広島地方気象台ホームページ「広島県(宮島町, 廿日市市)現地調査報告書(広島地方気象台/H17.10)」より転載
(<https://www.jma-net.go.jp/hiroshima/siryo/saigai/t0514genchichousa.pdf>)

③ 雨量データ等

▼ アメダス降水時系列

9月6日 平成17年9月6日 広島県

時刻	観測所名	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	日合	日最大1時間降水	
																										最大	時分	
芸北	八幡	1	2	0	1	0	1	0	2	3	8	9	8	15	9	9	13	17	26	25	19	20	17	15	4	224	33	1820
	内黒山	0	1	0	1	0	3	1	3	9	11	8	6	14	7	13	20	18	31	25	33	34	33	21	6	298	37	2050
	王泊	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	加計	1	1	0	0	0	0	0	0	2	5	2	2	3	3	5	8	9	16	43	37	30	27	26	9	229	44	1910
	大朝	2	2	0	0	0	0	0	0	3	2	1	3	1	2	5	5	9	7	6	12	31	13	10	4	2300	32	2300
	犬伏山	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	1	2	1	3	4	6	10	8	8	16	17	90	23	2340
	甲田	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	1	1	2	0	2	2	9	16	10	11	15	14	96	17	1940
備北	安田山	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	3	3	2	7	16	41	16	2400	
	三次	4	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3	5	4	3	7	9	41	11	2330	
	高野	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	2	2	2	6	11	23	11	2400	
	庄原	2	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	1	5	8	6	4	4	10	52	12	2020		
	道後山	5	13	4	2	3	0	4	3	4	2	1	2	4	5	7	2	1	2	9	10	8	4	6	9	110	14	0210
	東城	6	16	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	2	2	4	0	0	1	3	6	5	4	5	6	65	16	0200
広島・呉	廿日市津田	0	1	1	0	1	2	1	6	5	8	10	10	12	12	13	18	25	42	33	39	42	48	14	3	346	50	2130
	大竹	0	0	0	0	0	1	1	6	4	5	7	5	8	9	7	15	24	34	28	22	22	22	6	2	228	34	1800
	恵下谷山	0	0	0	0	1	1	0	1	3	3	2	2	6	4	6	9	9	17	14	21	18	26	15	1	159	28	2220
	海見山	1	1	1	0	0	0	0	0	3	3	4	2	5	4	4	7	9	15	9	7	28	33	17	153	42	2240	
	広島	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	3	3	4	9	6	16	25	13	13	22	19	3	140	28	2230	
	三入	1	1	0	0	0	0	0	0	2	3	5	2	7	5	5	9	12	19	10	7	20	29	12	149	38	2240	
	呉	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	3	8	10	10	27	34	27	23	33	13	8	205	34	1900
	倉橋	0	0	1	0	1	1	2	4	7	5	2	8	5	11	8	8	20	28	29	10	11	6	3	174	32	1930	
	久比	1	0	0	0	0	0	0	3	3	5	5	4	3	2	3	2	3	3	1	0	0	2	12	2	54	13	2250
	東広島・竹原	志和	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	3	1	1	3	3	7	8	15	9	13	10	29	16	124	29
東広島		1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	3	2	2	2	2	6	8	17	15	21	14	23	10	132	23	2300
河内		5	1	0	0	0	0	0	0	1	2	5	1	2	2	2	3	5	16	13	11	13	25	15	122	26	2310	
竹原	5	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4	1	1	2	2	2	4	12	1	0	6	18	3	65	18	2300		
福山・尾三	油木	12	19	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3	3	4	0	0	2	8	8	3	5	9	11	92	23	0140
	上下	9	8	0	1	0	0	0	0	0	1	2	3	5	3	1	1	2	8	30	9	9	15	18	125	34	2010	
	府中	11	5	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	2	0	0	2	4	10	1	1	1	10	55	11	0130	
	福山	10	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	0	0	3	2	8	0	0	1	4	35	11	0040	
	世羅	11	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4	3	4	3	1	0	4	10	14	7	11	21	15	110	22	2320	
	因島	11	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	1	0	2	1	2	3	4	0	1	0	8	37	15	0040	

50mm以上
 30mm~49mm
 20mm~29mm
 10mm~19mm

出典：広島地方気象台ホームページ「広島県(宮島町, 廿日市市)現地調査報告書(広島地方気象台/H17.10)」より転載
(<https://www.jma-net.go.jp/hiroshima/siryo/saigai/t0514genchichousa.pdf>)

